

GOD WITH US
Part 10: EARLY LETTERS
Message 2 – Galatians
In Defense of the Walking in the Spirit
Galatians 5-6

神は我らと共に

パート10：初期の手紙

メッセージ2－ガラテヤ人への手紙

御霊によって歩むために

ガラテヤ人への手紙第5、6章

はじめに

ガラテヤ人への手紙は、二つの主要なキリスト教の教義を擁護しています。その一つは、信仰を通ず、恵みによる救いの教義です。一連の規則に従うことや宗教的儀式に従事することによって「救われる」人はいません。その代わりに、十字架上でイエス様が成し遂げてくださった贖いを通して、神の恵みにより義とされます（神に正しいと宣言される、または「救われる」）。イエス様が私たちのためにしてくださったことに信仰（信頼）を置くとき、私たちは救われます。もう一つは、ガラテヤ人は、御霊の力によって聖化するという教義を擁護しています。聖化（清め）とは、よりイエス・キリストの様に変えられる過程です。聖化は、私たちの内に住む御霊の働きであるとパウロは主張します。私たちが律法の働きによって救われることがない様に、一連の規則への完全な従順によって聖化されることはありません。「御霊の力の内歩む」ことを学ぶととき、肉の力（罪の性質）に打ち勝ち、よりキリストの似姿へと変えられます。

パウロは、罪への無料のチケットを与えていると人々に告発され（恵みの賜物の能力のために）たので、御霊の力による聖化の教義の擁護は、恵みの福音の教義の結びとして必要でした。この告発に対するパウロの応答は二つありました。一つは、

律法には、神が真に望んでおられる様な変化を私たちの内にもたらすことは出来ないという応答。二つ目は、パウロは（5:13）キリストにある仲間の兄弟姉妹として、彼らは自由に召されたけれども、罪の性質を満足させるための無料のチケットとしてではなく、お互いに愛をもって奉仕し合うために召されたと断言しました（5:13）。御霊は神ご自身であるので、御霊が信者の内に宿ってくださるとき、まるで「律法が私たちの心に書かれている」かの様になります。信者は、キリストの様な変容を内から外へと生み出す、内部オペレーティングシステムを持っています。聖化の鍵となるのは、規則が記された本によって罪の性質をなだめようとするのではなく、御霊の内歩むことです。律法は、私たちが救うことも、聖化することも出来ません。イエス様は（神の恵みによって）私たちに救い、御霊は（神の力によって）私たちに聖化します。

御霊の導きによる自由の擁護：5：1－6:18

- 恵みの内にしっかり立つ：5：1-12

御霊に導かれる自由の問題に目を向ける前に、パウロは最後に、ガラテヤ人の信者に向かって、神の恵みの内にしっかりと立ち、彼らを惑わした偽りの教師から離れるように勧告します。

5:1 自由を得させるために、キリストはわたしを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながってはならない。**5:2** 見よ、このパウロがあなたがたに言う。もし割礼を受けるなら、キリストはあなたがたに用のないものになろう。**5:3** 割礼を受けようとするすべての人たちに、もう一度言うておく。そういう人たちは、律法の全部を行う義務がある。**5:4** 律法によって義とされようと

するあなたがたは、キリストから離れてしまっている。恵みから落ちている。5:5 わたしたちは、御霊の助けにより、信仰によって義とされる望みを強くいただいている。5:6 キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。

(ガラテヤ人5：1－6)

偽りの教師たちは、新しい異邦人信者たちに「完全に救われる」ためには、ユダヤ人の割礼の儀式を受け、モーセのすべての律法に従う必要があると説きました。パウロがガラテヤ人に「キリストから離れ」、「恵みから落ちる」危険があると警告したとき、「彼らが救いを失う」と述べたのではありません。聖書は多くの箇所、人が「救われる」と、神の子として御霊によって「しっかりと封印される」ということを明らかにしています(エペソ人1：13、14)。しかし、神の子とされても、健全な教義から「抜け落ち」、十字架上でイエス様が私たちのためにしてくださったことの真の意味から「離れる」ことが可能です。モーセの律法に従うことによって救われようとする制度に戻ることによって、ガラテヤ人は(個人的な恵みの立場からではなく)恵みの原則から落ちてしまった。手紙の冒頭にあるように、パウロは偽りの教師たちに呼びかけ、読者に彼らとは何の関係ももたないように警告します(5：7-11)。

- 正しく愛する自由：5：13-15

ここでパウロは、旧約の律法を「自分を愛する様に、あなたの隣人を愛しなさい」と要約し、イエスの教えを反響しています。

5:13 兄弟たちよ。あなたがたが召されたのは、実に、自由を得るためである。ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい。5:14 律法の全体は、「自分

を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」というこの一句に尽きるからである。5:15 気をつけるがよい。もし互にかみ合い、食い合っているなら、あなたがたは互に滅ぼされてしまうだろう。(ガラテヤ人5：13－15)

罪からの解放は、罪への自由を意味するものではありません。十字架から流れる赦しを受け入れただけでなく、キリストの御霊に私たちの内に宿っていただく様に招き入れたのです。そして、キリストの御霊である聖霊様は、信者の中で常に働き、自分に仕えるのではなく、他の人を愛するように力を与え、導いてくださいます。

5:16 わたしは命じる、御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。5:17 なぜなら、肉の欲するところは御霊に反し、また御霊の欲するところは肉に反するからである。こうして、二つのものは互に相さからい、その結果、あなたがたは自分でしようと思うことを、することができないようになる。5:18 もしあなたがたが御霊に導かれるなら、律法の下にはいない。

(ガラテヤ人5：16－18)

パウロは、御霊の実とは対照的に、様々な肉による行為を並べています。

5:19 肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、5:20 偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、5:21 ねたみ、泥酔、宴楽、および、そのたぐいである。わたしは以前も言ったように、今も前もって言うておく。このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない。(ガラテヤ人5：19－21)

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、**5:23** 柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。(ガラテヤ人 5 : 22, 23)

御霊の「実」は単数です。複数ではないことに注意してください。それは、御霊が私たちの生活を支配しているなら、時間とともに着実に増加するこれらの9つの特性すべてを生み出すことを示しています。繰り返しますが、鍵はこれらの9つの分野のいずれかにおいて、より良い人間になるための努力ではありません。むしろ、鍵は御霊の影響下で生きることです。御霊は私たちの生活の中で、すべて9つの実を結んでくださいます。

最後の句は、ガラテヤ人のメッセージ全体を要約しています：

5:25 もしわたしたちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか。(ガラテヤ人 5 : 25)

私たちに新しい命を与えてくださったのは御霊です。御霊と歩調を合わせながら、新しい人生を生きる方法を教えることが出来るのも御霊です。

**このノートの終わりに、「霊の内に歩く」とはどういう意味かをより詳細に取り上げた補足があります。

-実践的な警告 : 6 : 1-10

通常、パウロの手紙には、教義上の内容が詰め込まれています(キリストにおける私たちの立場を説明しています)。しかし、また、キリスト者の生活が御霊の力、導き、影響の下で生きるとき、その生活がどの様に見えるかを説明する実践的な部分もあります。ガラテヤ人の最後の章で、パウロは、キリスト者としての生活の幾つかの重要な問題に触れています。

1. 罪に陥った人々を助ける。

6:1 兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。

(ガラテヤ人 6 : 1)

倒れた兄弟や姉妹に対する本物の愛が、この命令の背景です。修復は優しく謙虚に行うべきです。私たちは皆、罪に陥りやすいことを知っています。

オークポイント教会では、他者と「繋がる」ことを勧めています。あなたが倒れたとき、誰があなたを助け上げますか？あなたが衰弱したときに、誰が回復するのを助けますか？一方、今、回復するために、あなたの愛と触れ合いを必要としておられる人は誰ですか？クリスチャンの生活を孤立して生きることは出来ません。他の献身的な信者との共同体でのみ起こります。あなたの午前2時の友は誰ですか？

2. お互いの重荷を負い合う。

6:2 互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。(ガラテヤ人 6 : 2)

ここでいう「負担」とは、重い荷物を指します。誰かが重い荷物で苦しんでいるとき、私たちは人生のその様な季節に互いに助け合うべきです。注：6章5節の状態：「各自が自分の荷物を負担します。」5節の「重荷」という言葉は、個人用のバックパックの様なものを指します。私たちは、それぞれ個人的責任を負っており、それを受け入れて満たす必要があります。友が仕事をする責任がある場合、彼らのためにその仕事をする必要はありません。彼らは自分のバックパックを

運ぶ必要があります！一方で、友人が試練の状況下でひどく苦しんでいる場合、私は「彼らの重荷を負う」のを手伝う必要があります。イエス様は、「善いサマリア人」（ルカ 10：25-37）について語られました。善いサマリア人は、強盗どもに襲われ、着物をはぎ取られ、傷を負わされ、半殺しにされた男の重荷をある期間負いました。男が癒され、再び自分の「荷物」を運ぶことが出来るようになると、彼らは別れました。第2節は愛の法則について語っています。第5節は、個人的な責任と説明責任の問題について話しています。私たちはそれぞれ、愛をもって両方の原則を適用しなければなりません。

3. 謙虚でいる。

6:3 もしある人が、事実そうでないのに、自分が何か偉い者であるように思っているとすれば、その人は自分を欺いているのである。**6:4** ひとりびひとり、自分の行いを検討してみるがよい。そうすれば、自分だけには誇る事ができても、ほかの人には誇れなくなるであろう。（ガラテヤ人 6：3，4）

ガラテヤ人の信者が律法に戻ったとき、本質的に人々の善と悪の行動を順位付けする業績を重視する環境に陥ってしまいました。パウロは、それらの信者に「低く留まり」、お互いに対して謙虚な態度を保つよう激励しています。誇りとうぬぼれは、私たちが盲目で自分を欺いている兆候です。神は誇り高い人々に反しておられます。私たちは皆、神が私たちの内で、また、私たちを通してなさっておられることに感謝しなければなりません。すべての栄光は神にあるのであって、私たちにではありません。

4. 教師たちの世話。

6:6 御言を教えてもらう人は、教える人と、すべて良いものを分け合いなさい。（ガラテヤ人 6：6）

初期の教会では、有給の職はありませんでした。しかし、一部の人々は、新しい信者が自分の信仰で成長出来るような教えを準備するために、かなりの時間を費やさなければなりませんでした。この様に、初期のキリスト者は、彼らの資源を共有することによって、有形の方法で教師の世話をしよう奨励されました。しかし、パウロは例外でした。その理由は、批評家に金のためにそこにいと非難させる要素を与えたくなかったからです。パウロは幕屋を作り、販売することで自分を支えました。投獄され働けなかったとき、信者からの愛の贈り物に感謝しました（ピリピ人 4：10,15,16）。

5. 霊にまかす。

6:7 まちがってはいけない、神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。**6:8** すなわち、自分の肉にまかす者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまかす者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう。（ガラテヤ人 6：7，8）

パウロは、「御霊によって歩む」というテーマに戻りますが、「刈り取り」という言い回しを用いて、霊と肉の戦いがどの様に展開するかを説明しています。農業や植え付けと同様に、種を蒔いたものを収穫します。私たちが「肉に種をまく」こと、肉に食べさせ、繁栄する機会を与えていることを意味し、その結果は腐敗（または肉の行為の現れ）をもたらします。一方、私たちが「霊に種をまく」（霊の意志、影響、運動に歩調を合わせようようなことをしていることを意味する）なら、霊は私たちの中で永遠の

命の実を結ぶでしょう。

6. 忍耐を持って善を行う。

6:9 わたしたちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。

6:10 だから、機会のあるごとに、だれに対しても、とくに信仰の仲間に対して、善を行おうではないか。

(ガラテヤ人6：9，10)

私たちの努力に対する反応がないため、「良いことをする」ことにうんざりすることもあります。しかし、ここでは、結果が表示されない場合でも、良い結果を出すことに粘り強く取り組むことが奨励されています。「たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる」からです。今、あなたが良いことをされて疲れている状況はありますか？あなたが得ておられる反応に関係なく、良いことをする道を前進し続ける方法を考えてください。何人かの人々に祈っていただくよう頼むことが可能です。あなたに対する神の約束は、最終的に、神の時に、ある種の報酬を得るという約束です。その報酬がいつどのように来るかをお決めになられるのは、神です。神の御言を受け入れ、善行を続けるのかどうかは、あなた次第です！ヘブライ人第11章は、人生の「地上の実」を見たことがないにもかかわらず、神と忠実に歩むことによって忍耐強く「善」を行った多くの人々を思い起こさせます。数千年後に続いた私たちが彼らの実です！しかし、神はその約束に忠実であられるので、いつか天国で神の賛美と報いの収穫を受けるでしょう。

-最後の言葉：6：11-18

パウロが手紙の終わりに近づいたとき、偽の教師に対する

怒りは、まだかなり明白でした。パウロは、彼らの動機は完全に自己中心的であると警告しています。偽教師たちは、どれだけ多くの人々が彼らに追従しているのかを自慢し、また、キリストの十字架について説教するがために迫害される（パウロが迫害された様に）のを避けたいと思っていた。パウロに関しては、ただ一つのことを自慢したかっただけです：

6:14 しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。

(ガラテヤ人6：14)

キリストの十字架は、パウロにとってすべてでした。また、パウロは、行く先々で、十字架について、いかなる代価を支払ってでも説教しました。パウロは世の拍手を求めていませんでした。むしろ、ただお一人の聴衆のために生きていました。

補足

御霊によって歩む

聖霊様は人格を持たれた（三位一体の三人目の）お方です。救いのためにイエス様に信仰を置くとき、聖霊様は、私たちの内に宿られます。聖霊様は、私たちを再生してくださり、「新生」を与えてくださいます。その瞬間から聖霊様は、私たちの生活の中で霊的な成長と変容（聖化）を生み出す命を与える力になります。霊的な変容は、「聖霊様と歩調を合わせて歩む。（ガラテヤ人5:25）」ことを学ぶことですので、聖霊様の積極的な働きです。

ガラテヤ人への手紙第5章とローマ人への手紙第6-8章は、両方とも、霊的な変化が肉体と御霊の間の戦いを含むことを非常に明確にしています。肉（罪深い性質、古い人）は、常に私たちの生活に不義な特性を生み出そうとします。一方、聖霊様は、私たちの生活の中で常に正しい実を結ばせようとされます。この戦いに勝つための鍵は、いくつかの規則によって肉を飼いならそうとするのではなく、むしろ御霊の力の内に歩むことを学ぶことです。それはガラテヤ人への手紙第5章とローマ人への手紙第6-8章の両方において、パウロが強く強調している教えです。御霊の力の内に歩むことは、「肉の行いを死に至らしめる」ための唯一の方法です（ローマ人8:13）。問題は、どのように「御霊の内に歩むか」です。

1. 降伏する

最初の鍵は、聖霊様に降伏することです。聖霊様が本当に私たちの生活を支配しておられるなら、彼は自然にその実を結んでくださるでしょう（ガラテヤ5:22,23）。エペソ5:18は、降伏とは、私たちが御霊に先導していただき、導いていただき、力を与えていただき、支配していただく継続的な過程であると説明しています。「肉」は絶えず私たちの生活を支配しようとして、私たちの内にある聖霊の支配に対して「戦争」を仕掛けます。降伏とは、聖霊様に対する心の配置です。降伏は、簡単な祈りによって実行することができます。私たちは、「神の御霊を苦しめている」（エペソ4:30、または私たちの内への神の流れを止めている）かもしれない罪を認識します。罪を告白すると、信仰によって神が私たちをお赦しになり、「すべての不義から私たちを清めてくださる」ことを知ることが出来ます（1ヨハネ1:9）。そうすることによって、聖霊の支配に降伏する準備が整いました。次のように祈ります。

聖霊様、あなたが私の内に宿ってくださっていることを感謝します。キリストにある新しい命を私に与えてくださったことを感謝します。私の人生を支配してください。私に力を与え、守り、導き、あなたの目的のために私を用いてください。あなたと歩調を合わせさせてください。アーメン。

祈った後で、信仰によって、御霊が私たちの心の王座に着いたと信じます。そうすれば、聖霊様は、私たちの中を自由に流れて下さり、私たちが彼と歩調を合わせて歩みながら、私たちの内に彼の実を結ぶことが出来るようになります。私たちの思考、感情、行動、反応に、一日中注意を払うことを望むなら、聖霊様は内で活動して下さいます。

注：聖霊様に降伏するという事は、詰まった水道管に再び水が流れるようにすることに例えることが出来ます。聖霊様は、「肉」が私たちの内で生み出しているもの（水道管の詰まり）を認識させて下さいます。神が私たちに啓示されていることに注意を払う必要があります。私たちの態度と行動のより深い原因について、神の知恵を求める必要があります（神がダビデ王の中に隠された「痛み之道」を明らかにして下さるように、ダビデが祈った様に。詩篇139:23,24）。そして、私たちは、それらの肉主導であることを聖霊様に告白する必要があります。この種の自己認識を実践することを学ぶと、「水道管の詰まり」が解消し始め、「御霊の実」が私たちの中に流れ始めます。

2. 聞く

御霊の内に歩むための第二の鍵は、聖霊様が導こうとしておられるので、常に聖霊様に耳を傾けることです。聖霊様の「御声」は様々な方法によってもたらされます。

-神の御言：私たちが御霊に耳を傾けるための主な方法は、靈感を受けた神の御言に時間を費やすことです。エペソ人 5:18 の「御霊に満たされて」という命令には、コロサイ人 3:16 の「キリストの御言を、あなたがたの内に豊かに宿らせなさい。」という命令に平行した箇所があることに注意することが重要です。これらの箇所を一緒に研究すると、聖霊様と歩調を合わせることで何を意味するかについての重要な洞察が得られます。御霊に満たされた人生と御言に満たされた人生は密接に関係しあっています。神の御霊は、神の御言を生み出しました。ですから、御霊が御言を用いて、私たちを変容させてくださることは理にかなっています。神の御霊は神の御言を用いて、神の子を変えます。神の御ことばに耳を傾けるとき、私たちは聖霊様の御声に耳を傾けています。したがって、神の御言の内に定期的に過ごすことは、御霊と歩調を合わせることを学ぶ過程の最も重要な部分です。

-仲間の信者の言葉：他の信者を通して、神の御声が届くことによって、御霊に耳を傾けることもできます。詩篇や賛美歌や霊的な歌などで語られている様に互いに忠告し、教え、励まし、慰め、互いに祈るようにと言われています。頻繁に、仲間の信者の言葉を通して、聖霊様は語りかけられます。たとえば、聖霊様は何人かの信者に霊的教育の賜物を授けられました。それらの人の教えのミニストリーの下に座るとき、彼らの内に、そして彼らを通して、聖霊様が語られるのを「聞きます」。繰り返しになりますが、聖霊様は他の信者に訓戒する賜物を贈られました。彼らが私たちのところに来て、私たちを訓戒する（挑戦し、励ます）とき、私たちは彼らを通して語られる御霊を「聞いている」のです。聖霊様は、祈りの賜物を他の信者に授けられました。彼らがあなたと一緒に、または、あなたのために祈るとき、あなたは頻繁に彼ら

の内に、また彼らを通して祈る御霊を「聞く」でしょう。この様に、他の信者を通して語ってくださる聖霊様を注意深く聞くことは、御霊の内に歩むための重要な部分です。

-感情の御声：三位一体の神は、感情を持たれたお方です。たとえば、旧約聖書全体を通して、多くの場合、神と関係を望まない人々に対する悲しみの中で、人々だけでなく、モーセの様な個人との関係の中で、また、ハガルに優しく話された際にも感情を示してこられました。イエス様は、福音書全体を通して、不安、怒り、恥、悲しみ、痛み、驚き、希望、信仰、愛、喜び、そして平安のすべての感情を示されました。御霊は悲しまれ（エペソ人への手紙 4:30）、私たちの内でうめき声をあげられることもあり（ローマ人への手紙 8:26）、私たちのために嫉妬されることもあります（ヤコブ 4:5）。聖霊様は神であられるので、神のあらゆる感情は、聖霊様を通して私たちの内に生み出されることは理にかなっています。ローマ人への手紙第 8 章では、「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる（ローマ人 8:16）。」と述べています。何らかの神秘的な方法で、聖霊様の感情と私たちの感情が内に混ざり合っています。

繰り返しますが、自己認識を実践することが重要です。感情が自分の中に生じたとき、無視するべきではありません。むしろ、感情を調べる必要があります。良い面として、御霊の喜び、御霊の安らぎ、御霊の慰め、御霊の励まし、御霊の感謝を経験しているかもしれません。私たちがこれらの前向きな感情（慰め）を経験するとき、内住される御霊に立ち止まって「ありがとうございます」と言うことは望ましいことです。それらの前向きな感情は、私たちの魂を喜ばせ、生きている充実感を感じさせるものを示すために神によって用いられます。

負の感情（「荒廃」）も同様に重要です。多くの場合、聖霊様は、あなたが大きな感情的な反応を抱いているときに、隠された領域を明らかにすることが出来ます。ある状況に対して「5ドルの反応（小さい反応）」がある場合、おそらく何も検討する必要はありません。しかし、「500ドルの反応（大きな反応）」がある場合は、体験した「果実」の「根底」にあるものを聖霊様に明らかにしていただく時です。怒りを感じたとき、立ち止まって尋ねてください：「聖霊様、私はなぜ、怒っているのですか？私の怒りの下に潜む繊細な感情は何ですか？」悲しいとき、尋ねてください：「聖霊様、この悲しみの根源は何ですか？」恐怖を感じる時、または不安なとき、尋ねてください：「聖霊様、私の恐怖と不安を駆り立てている、私が信じている深い不安や嘘は何ですか？または、なぜこの状況において、あなたを信頼することに苦労しているのでしょうか？」負の感情は、車のダッシュボードの警告灯の様なものです。警告灯は、何か私達の中で起こっていることを警告します。負の感情は通常、二つの方向のいずれかを指します。**怒りを抱くとき**、御霊は、私達の中の不正義に対する健全な怒りを促しておられるのかもしれませんが。または、不当な怒りを宣告しておられるのかもしれませんが。**恐れを抱くとき**、霊は、私達を危険にさらさないために健全な恐れを促しておられるのかもしれませんが。または、私達は状況を制御出来ないために、御霊が不健全な恐怖を抱いていることを宣告して下さっているのかもしれませんが。重要なのは、神の御霊は、私達の前向きと後ろ向きな感情の両方を用いて、私達の注意を引かれます。「御霊と歩調を合わせる」ことを学ぶことは、注意を払うことを学び、感情が私達の中に生じたときに質問することを学ぶことです。

3. 歩み

最後に、御霊に関する新約聖書の御言は、最終的には御霊が私達を連れて行きたいと願っておられる方向へ、私達が移動することを要求しています。降伏することと聞くことは、不可欠な前提条件ですが、私達が聖霊様の御声を聞いたなら、今度は、御霊によって歩む時です（御霊と歩調を合わせてください。御霊に従ってください）。御霊が信仰の一步を踏み出すように、私達を招いておられるなら、信仰をもって、その方向へ動き始めます。御霊が何かを止めさせようとしておられると確信するなら、それを止めるべきです。御霊が怒りを表面に表すことを許しておられるなら、その怒りの原因を識別し、怒りとその原因に対処して下さる神の導きに従います。神の御霊が神の御ことばを用いて、何かに注意を向けられたなら、「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者とならず、御言を行う人」になります（ヤコブ 1:22）。

降伏>聞く>歩む。御霊の内に歩むということは、私達の心に宿って下さる神と共に踊ることを学ぶということです。私達の生活の議題を持っておられる御霊の動きに「歩調を合わせる」ことを学ぶということです。前に、水道管の詰まりをなくすことに例えましたが、もう一つ、風力原動機に例えることが出来ます。何百もの巨大な風力原動機が設置されている野原を見たことがあるかもしれません。風力原動機は、単独では原動することは出来ません。風の力を用いることによってのみ動きます。これらの風力原動機が機能するためには、ブレードを回転させるために「風を受け止める」必要があります。したがって、原動機は自動的に風に向かって回転するように設計されています。私達が「御霊に歩み寄る」とき、基本的に、御霊の力と実が私達の中に流れ込

むように、御霊の風を受け止めるために命を御霊に向けているのです。

イエス様は、弟子たちに別の例えを用いられました。イエス様は、次のようなことを言われた：「わたしはブドウの木であり、あなたは枝です。枝はつるに繋がったままでなければ実を結ぶことができません。ですから、わたしとの繋がりを維持しない限り、実を結ぶことは出来ません。わたしとの繋がりを保つなら、あなたは多くの実を結ぶでしょう。そうすることで、あなたは私の父に栄光をもたらし、あなたがわたしの真の弟子であることが証明されます。でも、わたしから離れては、何も出来ないことを覚えておきなさい。（参照：ヨハネ 15：1-11）

ディスカッションの質問

1. 三位一体の3人目のお方である聖霊様について学んだ新しいことは何ですか？
2. 御言を通して、コミュニティを通して、または、感情を通して、御霊の声を聞いた時のことを考えてください。
3. 人生の重要なポイントで御霊と歩調を合わせていたと感じられた時期について話し合しましょう。
4. 御霊が解除しようとしておられる、あなたの「水道管」の「詰まり」は何ですか？
5. ガラテヤ人の手紙は、あなたの人生の自由と恵みについての学びのために、どのような助けとなりましたか？